

新「環境研究・環境技術開発の推進戦略」(案)に対する意見募集(パブリックコメント)の結果

1. パブリックコメントの結果概要

(1)パブリックコメントの期間:平成22年5月7日(金)～5月17日(月)

(2)提出人数:10人・団体
(個人:7件、団体:3件)

(3)意見総数:11件
(個人:7件、団体:4件)

2. 提出された意見の要旨及び意見に対する考え方

<全体的視点>

意見の要旨	意見に対する考え方
ア 体験学習を重要視すべき。	いただいたご意見については、重点課題2「持続可能社会への転換に係る研究」のサブテーマ「環境教育・コミュニケーション・合意形成のあり方の研究」等に含まれうるものと考えるので、今後の参考にさせていただきます。

<2. 我が国の環境研究・技術開発に求められること について>

意見の要旨	意見に対する考え方
イ 新戦略案において環境を人間との関わりにおいて捉えているが、「この環境にはどのくらいの人口が生活することか可能であるか」「どの程度の人口が本来適当なのか」等、単純に人口のみでなく活動内容等と組み合わせた検討をすることが望ましい。	いただいたご意見については、重点課題1「長期的な国家ビジョンの中でのあるべき社会(持続可能社会)に係る研究」に含まれうるものと考えるので、今後の参考にさせていただきます。

<3. 今後5年間で重点的に取り組むべき環境研究・技術開発 について>

意見の要旨	意見に対する考え方
ウ 経済的評価や転換方策、あるいは投資に関しては、世の中の経済状態や今後の高齢化社会等の周囲状況を踏まえて、国民の負担を最小化する研究開発を進めるべき。	いただいたご意見に係る研究・技術開発については、重点課題2「持続可能社会への転換に係る研究」に含まれうるものと考えるので、今後の参考にさせていただきます。
エ 図-2 領域体系についての考え方において、①安全が確保される社会、②脱温暖化社会、③循環型社会、④自然共生型社会の下に、「将来に渡って安心して暮らせる社会」を追加すべき。	「将来に渡って安心して暮らせる社会」は、①-④のすべてを達成した社会と同趣旨と思われ、図-2に示している「持続可能な社会」の概念に含まれると理解しています。
オ 給湯機の低周波音について対策を講じるべき。(3件)	いただいたご意見に係る研究・技術開発については、重点課題5「複数領域間のトレードオフを解消する研究開発」に含まれうるものと考え

	ので、今後の参考にさせていただきます。
カ 重点課題9「エネルギー供給システムの低炭素技術の推進」のサブテーマに、「原子力エネルギーの高度利用技術開発推進及び環境整備」を追加すべき。	ご指摘の点は、重点課題9「エネルギー供給システムの低炭素化技術の推進」のサブテーマ「要素技術(再生可能エネルギー技術及び既存エネルギー高度化技術)の低コスト化・高効率化・システム化」に含まれるものと考えるので、今後の参考にさせていただきます。 なお、研究・技術開発例として、原子力発電施設の高度化や、安全の確保を大前提とした原子力発電の稼働率向上、高経年化・老朽化対応等を想定しています。
キ 「化学物質等」という表現に、重金属単体、放射線やアスベスト、ナノ粒子のように、物理的特性の故に有害な物質等を含むのか明確にすべき。	本推進戦略における「化学物質等」には、重金属単体、アスベスト、ナノ粒子を含めておりません。一方、放射線については他の制度等で別途手当てされるべきものとして含めておりません。
ク 重点課題 16「化学物質等の未解明なリスク・脆弱性を考慮したリスクの評価・管理」について、未解明なリスクのみに対象を限定すべきではない。(2件)	重点課題の対象を未解明なリスクのみに限定するという趣旨ではなく、未解明なリスクも考慮して研究・技術開発を進めるという方向性を示すものとご理解ください。